

学術講演会・研究発表会・公開講座

「女性のためのよろず健康相談」開催のお知らせ

弘前大学大学院保健学研究科附属すこやかコミュニティ支援センターの「女性のためのよろず健康相談部門」では、保健師、助産師、看護師が地域連携の一環として相談窓口を開き、活動に取り組んでおります。

今回は、平成24年度第3回目です。ミニ講座と個人相談を予定しております。

「家族や自分の体調が気になる」「これって更年期の症状?」「最近尿もれが・・・」「育児で悩んでいることが・・・」など、様々な年代の女性が抱えるご心配に無料でお応えする機会です。ぜひお気軽にお出かけください。

1. 日 時：2012年12月8日（土） 14:00～16:00
2. 場 所：弘前市まちなか情報センター2F
3. 内 容：ミニ講座 ①女性のための尿もれのお話し 14:00～14:20
②それって病気?更年期のさまざまな症状 14:30～14:50
個人相談 14:00～16:00
4. 参加費：無料

問い合わせ先：弘前大学大学院保健学研究科 健康支援科学領域
女性のためのよろず健康相談部門 代表 西野加代子
電 話：0172-39-5995

「海外生物遺伝資源の取り扱いに関するセミナー」開催のお知らせ

この度、知的財産本部では、海外生物遺伝資源の取り扱いに関するセミナー（TV会議システム利用：発信元―帯広畜産大学）を、下記のとおり受信開催することとなりましたのでご案内申し上げます。

2010年第10回生物多様性条約締約国会議(COP-10)で採択された名古屋議定書では、生物遺伝資源の利用と利益配分する取り決めが明確化され、慎重な対応が必要となっています。

本セミナーでは、独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) バイオテクノロジー本部 生物遺伝資源開発部門 参事官 安藤勝彦氏を講師に、海外生物遺伝資源へのアクセス及び利益配分の現状、COP-11の最新情報について説明していただきます。

多数のご参加をお待ちしております。

1. 日 時：2012年12月10日（月） 15:00～16:30
2. 場 所：弘前大学農学生命科学部3階 SCS室
3. テーマ：海外生物遺伝資源へのアクセス及び利益配分の現状―COP11最新情報―

4. 講師：独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) バイオテクノロジー本部
生物遺伝資源開発部門 参事官 安藤 勝彦 氏

5. 対象：本学教職員、学部学生、大学院生、研究員

6. 参加料：無料

※参加を希望される方は、氏名、所属・役職、連絡先を記載し、12月7日（金）正午までに、下記連絡先までお申し込みください。

問い合わせ・申し込み先：弘前大学知的財産本部

電話：0172-39-3178

FAX：0172-36-2105

E-mail：chizai@cc.hirosaki-u.ac.jp

「震災研究交流会～弘前大学のネットワークで震災研究を広げよう～」開催のお知らせ

弘前大学大学院地域社会研究科では、「震災研究交流会」を下記により開催いたします。震災対応や震災研究に興味のある方はどなたでも参加・聴講できますので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

当日は報告の後に、震災に関する情報・意見交換を行います。

情報をお持ちの方はこの機会にご紹介ください。

1. 日時：2012年12月11日（火）
18：00～

2. 場所：弘前大学創立60周年記念会館 コラボ弘大8F 八甲田ホール

3. 内容：「除染研究の現状から見てきた汚染農用地再生の可能性」
姜 東 鎮 弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター 准教授

「放射線科学的手法による福島県浪江町復興支援活動」
床次 真司 弘前大学被ばく医療総合研究所 教授

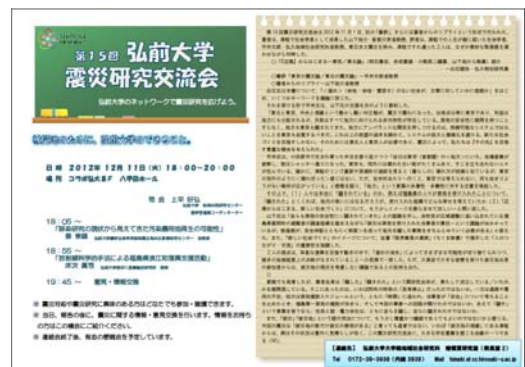
意見・情報交換

4. 対象：一般の方、学生、教職員

問い合わせ先：弘前大学大学院地域社会研究科 檜 槇 貢

電話：0172-39-3938

E-mail：himaki@cc.hirosaki-u.ac.jp



「弘前大学大学院保健学研究科
平成24年度 第2回大学院活性化講演会」開催のお知らせ

弘前大学大学院保健学研究科では、平成24年度第2回大学院活性化講演会を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

1. 日時：2012年12月21日（金）17：45～19：00

2. 場 所：弘前大学大学院保健学研究科 総合研究棟 6階 第24講義室

3. 講 師：東京女子医科大学看護学部 学部長 大学院看護学研究科 教授
田中 美恵子 先生

4. 演 題：全人的ケアのための看護倫理

※入場無料、事前の申し込みは不要です。

問い合わせ先：弘前大学大学院保健学研究科 学務グループ
電 話：0172-39-5911

「弘前大学地域社会研究会」開催のお知らせ

弘前大学大学院地域社会研究科では、「地域社会研究会」を下記により開催いたします。地域社会にかかわる研究に興味のある方はどなたでも参加・聴講できます。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 時：2012年12月22日（土） 13:00～

2. 場 所：弘前大学創立60周年記念会館
コラボ弘大4F 大学院地域社会研究科演習室

3. 内 容：檜 貢（弘前大学大学院地域社会研究科長）
「わが国における国土計画論について」

大山 祐太（弘前大学大学院地域社会研究科10期生）

「知的障害者のスポーツ活動に携わる大学生ボランティアの抱える不安に対する研究－特にスポーツボランティアに焦点をあてて－」

4. 対 象：一般の方、学生、教職員

問い合わせ先：弘前大学地域社会研究会事務局 竹ヶ原 公
E-mail：takegahara2002@yahoo.co.jp

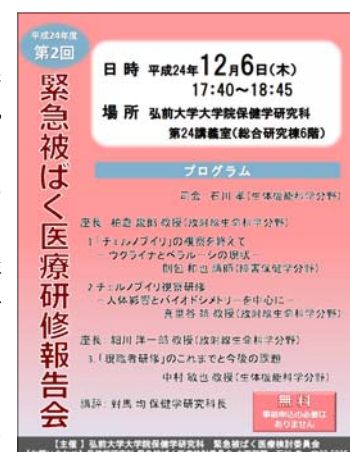


「弘前大学大学院保健学研究科緊急被ばく医療検討委員会 平成24年度 第2回緊急被ばく医療研修報告会」開催のお知らせ（再掲）

緊急被ばく医療研修報告会は、「緊急被ばく医療人材育成プロジェクト」の一環として、国内外の緊急被ばく医療研修に参加して得られた情報を公開し、被ばく事故および被ばく医療の最新情報を人材育成教育や研究に役立てる目的で開催しています。最後となる今回の報告会では、海外の原子力発電所事故の現状視察と、保健学研究科が外部発信している緊急被ばく医療人材育成プロジェクト現職者研修を取りあげました。

チェルノブイリ視察研修は、原子力発電所爆発事故発生から24年経過した現状の調査により、事故後の取り組み状況を福島第一原発事故への保健学研究科としての具体的な支援方法に役立てる目的で実施されました。

一方、緊急被ばく医療人材育成プロジェクト現職者研修は、主として現職の看護職者及び診療放射線技師を対象に緊急被ばく医療に必要な知



識を習得、連携・協働しながら適切な対応かつ安全管理ができる医療職者を育成することを目的で実施しており、これまで試行錯誤によって内容の充実を図ってきました。

本報告会を通して海外の原子力発電所事故における事故後の取り組み状況を把握し、また現職者教育の成果と問題点に関する情報を共有することが、ご参加のみなさまの資質向上に貢献することを期待しています。

奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 日 時：2012年12月6日（木） 17:40～18:45
2. 場 所：弘前大学大学院保健学研究科 総合研究棟6階 第24講義室
3. 対 象：弘前大学教職員、弘前大学学部学生、弘前大学大学院生、弘前大学医学部附属病院職員、青森県内医療従事者、その他
※参加費無料。事前のお申し込みは不要です。
4. プログラム：
 - ・司会 石川 孝 講師（生体機能科学分野）
 - ・演題発表
《座長：柏倉 幾郎 教授（放射線生命科学分野）》17:40～18:20
(1) 「チェルノブイリ」の視察を終えて ―ウクライナとベラルーシの現状―
則包 和也 講師（障害保健学分野）
(2) チェルノブイリ視察研修 ―人体影響とバイオドシメトリーを中心に―
真里谷 靖 教授（放射線生命科学分野）

《座長：細川 洋一郎 教授（放射線生命科学分野）》18:20～18:40
(3) 「現職者研修」のこれまでと今後の課題
中村 敏也 教授（生体機能科学分野）
 - ・講 評 對馬 均 保健学研究科長 18:40
5. 主 催：弘前大学大学院保健学研究科緊急被ばく医療検討委員会

問い合わせ先：弘前大学大学院保健学研究科 石川 孝
電 話：0172-39-5936
E-mail：ti3054@cc.hirosaki-u.ac.jp

「学術講演会」のお知らせ（再掲）

1. 日 時：2012年12月10日（月）16:30～17:30
2. 場 所：弘前大学理工学部2号館 10階 1005号室
3. 講 師：金子 元（はじめ） 氏（日本大学理工学部、日本学術振興会特別研究員PD）
4. 題 目：代数的数の2進展開について
5. 内 容：代数的無理数の2進展開に現れる数字は、数値実験の結果を見てもランダムであると予想されるが、証明されている事実は非常に少ない。本講演では、数字の変化の回数を解析することにより得られた新しい結果を、非専門家や学部学生にもわかり易く解説する。

問い合わせ先：弘前大学大学院理工学研究科 小松 尚夫

電 話：0 1 7 2 - 3 9 - 3 5 3 4

E-mail：komatsu@cc.hirosaki-u.ac.jp

「弘前大学大学院保健学研究科
緊急被ばく医療検討委員会 平成24年度 第2回講演会」のお知らせ（再掲）

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、続いて発生した福島第一原子力発電所の事故により、原子力災害における防災体制の見直しが行われています。

平成11年9月30日の東海村JCOのウラン加工工場における臨界事故を受けて制定された、「原子力災害対策特別措置法」に基づき制度が整えられてきましたが、今回の事故により、構築されてきた防災体制では対応出来ないような事態に至っており、福島県の居住制限区域においては、現在に至っても帰宅できない状況が続き、避難を余儀なくされているのが現状です。また内閣府原子力安全委員会では平成23年10月には緊急時防護措置準備区域（UPZ）を定め、防災対策を重点的に実施する地域を30キロに拡大しています。

青森県においては、平成23年度の「原子力防災対策検討委員会」により、防災マニュアル作成に向けた検討及び広域避難、モニタリング、放射性物質拡散予測システム、防災訓練などの原子力防災に関する項目への提言も行われ、現在では、UPZ圏外への避難に対する調整も進められており、11月3日には重点区域を30キロ圏と想定した防災訓練も行われました。

そこで、今回、青森県における緊急被ばく医療の変更点や今後の方針を知る機会となるよう、青森県健康福祉部医療薬務課薬務指導グループ主幹 増田氏にご講演いただきます。

多数のご参加をお待ちしております。

1. 日 時：2012年12月11日（火） 16：30～18：00（質疑応答を含む）
2. 場 所：弘前大学大学院保健学研究科 総合研究棟 2階 第16講義室
3. テーマ：「青森県緊急被ばく医療について」
4. 講 師：青森県健康福祉部医療薬務課薬務指導グループ 主幹 増田 大介 氏
5. 主 催：弘前大学大学院保健学研究科緊急被ばく医療検討委員会

※事前のお申し込みは不要です。どなたでもご参加できます。50名程度まで。

6. 担当者：弘前大学大学院保健学研究科 緊急被ばく医療検討委員会 企画部門

問い合わせ先：弘前大学大学院保健学研究科健康支援科学領域 北宮 千秋

電話・FAX：0 1 7 2 - 3 9 - 5 9 4 5

E-mail：chiaki@cc.hirosaki-u.ac.jp

平成24年度 弘前大学公開講座
「大改造!!写真でビフォーアフター—デジカメ写真を編集しよう—」の開催について（再掲）

1. 日 時：2012年12月15日（土）
13：30～16：00
2. 場 所：弘前大学総合情報処理センター
1階 教育用第1実習室
3. 内 容：フリーソフト（無料で配布されているソフトウェア）である“GIMP”を使用して、デジタルカメラで撮影した写真の編集技術を学びます。
4. 参加費：無料（パソコン等もこちらで準備いたします。）



5. 対 象：小学校高学年以上

6. 申込方法：電話又はE-mailで12月7日（金）までに下記申込先までお申込みください。
E-mailでお申込みの場合は、「氏名、住所、電話番号」をお知らせください。

問い合わせ・申し込み先：弘前大学総合情報処理センター

電 話：0172-39-3721

E-mail：koukai-kouza@cc.hirosaki-u.ac.jp

学 内 掲 示 板

弘前大学出版会から出版のための企画募集

弘前大学出版会から著書の出版を希望される方は弘前大学出版会にご相談ください。出版企画提案書の書式を添付ファイルでお送りいたしますので、ご記入の上、ご返送ください。詳細についてはご連絡いただいた折に、ご説明いたします。

問い合わせ先：弘前大学出版会（附属図書館内）

電 話：0172-39-3168

F A X：0172-39-3171

E-mail：hupress@cc.hirosaki-u.ac.jp

国立大学協会情報誌「JANU」「JANU別冊」について

本学が会員となっている「一般社団法人 国立大学協会」では、各国立大学の現状や優れた取り組みなどを分かりやすくまとめた国立大学協会情報誌「JANU」「JANU別冊」を作成しています。

下記URLより最新号を含め、今まで発行されたバックナンバーをご覧いただけます。

<http://www.janu.jp/report/infomation.html>

第25号・第23号・第22号において、本学記事が掲載されていますのでご覧ください。

編集担当から） 講演会、研究発表会、部局行事等の掲載原稿を発行予定日（毎月1日と16日の2回）の7日程度前までに、下記のところまでご提供ください。お待ちしております。

◎担当：総務部広報・国際課広報・国際グループ

E-mail：jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp Fax:39-3498、内線：3012